
鶯と屋敷の子守歌

耀

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

鶯と屋敷の子守歌

【Nコード】

N0910M

【作者名】

耀

【あらすじ】

ここは鶯が一年中鳴くお屋敷
椿は此处から出られるか…？

驚と（前書き）

全力でトマトピューレ見たいな液体が出てきます
ホラーで恋愛〃トマトピューレ

説明文たりねえよ！くそっ！なんでこうなるんだ！

「隊長！作者がストライキ始めました！」

上の事が苦手な方も大丈夫な方も出来るだけ逃げて！超逃げて！

驚と

ここは鶯の鳴き声が一年中きこえるお屋敷
深夜の一時だけしか入れないし、見えない。
だからよく肝試しなど行われるが誰一人戻ってこない。

それでもあなたは入りますかー？

・・・どうやら一人来てしまったようだ。
名前は桜椿サクラツバキというのか・・・

さて、小奴がどれほどの肝を持った奴だか楽しみじやの。
我がしもべ達はどのような反応するのか。
小奴は我を見つけることができるか。
清い肝をもった人間ほど旨いものはない。
しかし何処かで見たことある。

・・・
無理に思い出す必要はないか。
そろそろ一分がたつ。

・・・もう小奴は逃げられなくなった。
どんな手でくつてやろうかー？

私は（前書き）

前回の注意書きをしっかりと読んでくださいね！

私は

「・・・まただ。」

毎日来る「しね」というメール
毎日来る無言電話

そう、私は苛められてるのだ。

クラスメイトは勉強のストレスを私にぶつけて発散している。

私を標的にした理由・・・

それは「泣き虫で弱いから」だ。

そのせいで・・・私は・・・

「・・・あれ？」

おかしい。

いつもなら50件は来てるであろうメールが
今日は1通しか来ていない。

「驚からの挑戦状？・・・何か怖いし、あやしすぎる・・・」

私はここで削除しようとしたが、
好奇心に負けずに開いてしまったのです・・・

「あなたは驚のお屋敷に選ばれました・・・?! お屋敷って・・・あのお屋敷?！」

あのお屋敷とは午前一時にしか現れなく、入って行ったものは誰一人と戻って来なかった。

「いつ行くわけがない！？ あれ？まだ続きがある。．．．ここから宝玉を盗み出したらあなたは苛められなくなります。」

ありえない。

だけど、もしも…もしも本当だったら…？

気付いたら私はお屋敷に向かって走り出していた。

森と（前書き）

次回でやっとグロ系入ります

森と

「みゃっ！なにここ暗いよ・・・」

椿は勇気を振り絞ってお屋敷のある森に行った

そこは鶯の声はするどころか鶯一匹も見当たらなかった

「・・・なんで鶯のお屋敷っていうんだろ？」

「こんな静かなのに」

ザツザツザツと音をたてて歩いてたら一時になっていることに気付いた

「早くしなきゃ。あっ・・・」

少し大きめな門を発見した椿は走り出した

（大丈夫、落ち着いて私。

お宝をとって帰ればいいだけなのだから）

椿は大きく息を吸って自分の身長のお3倍はある扉を力いっぱい押して開けた

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0910m/>

鶯と屋敷の子守歌

2010年10月16日08時37分発行